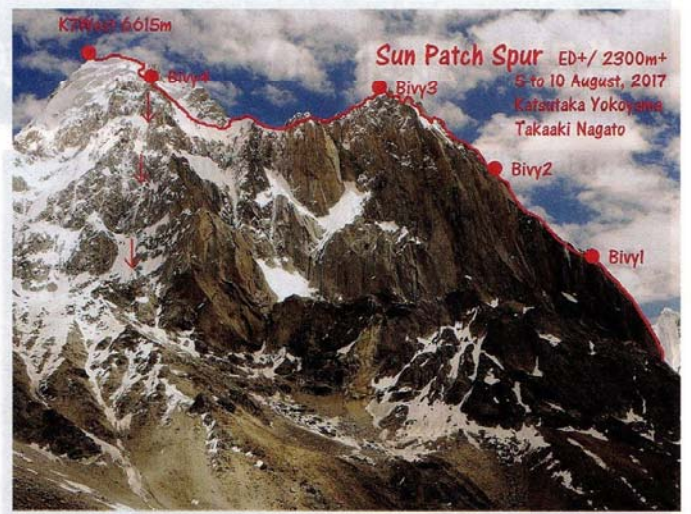


Sun Patch Spur全体図



Sun Patch Spur横からの図

3年前に敗退したバダルピークからK7 Westまでの初縦走をリベンジ。ラインは非常に複雑かつ長大で、実際にどこを登攀したのかの説明が難しいため、単純にK7 West南西稜初縦走と呼んでいるが、ここには新ルートからのビッグウォークライミングと冰雪壁やリッジの登攀、さらには未知の壁の下降も含まれている(2枚のルート図を参照)。

8月2日に下部岩壁のフィックス工作。本来なら取付からワンプッシュのアルパインスタイルでトライしたいところだったが、下部岩壁の傾斜の強さから時間がかかることが予想されたため、BCにあったロープ8本をかき集めてフィックス工作をすることにした。ラインは、前回登った右端の岩稜の一本左。取付と1ピッチ登った場所に古いスリングを見つけたが、それ以降は人工物を何ひとつ見つけることはなかった。9ピッチのガリー〜チムニー〜クラックの登攀(最高5.11c)で小レッジまで。雨の中びしょ濡れになりながら、同日中にBCまで戻る。

2日間のレスト後、8月5日夜明け前にゴーアップ。フィックスをたどり、トップに着いてから不必要な装備やロープをホールバッグに入れて投げ落とす(登攀翌日、回収を行なった)。

ここから登攀開始。岩セクションは全ピッチ長門が

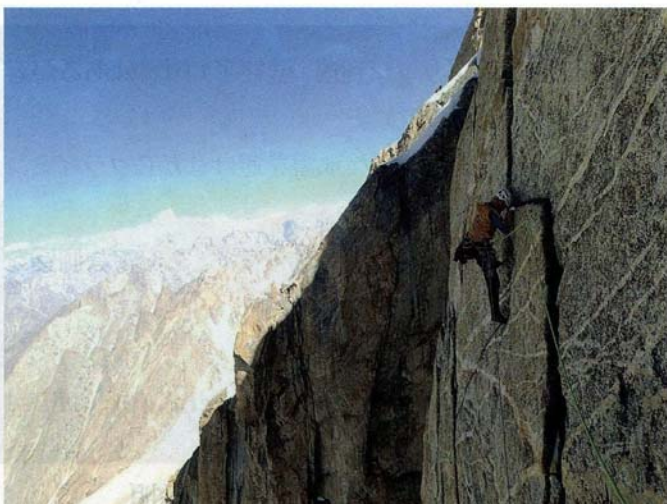
リード。

初日は7ピッチ(A1含む)登り、岩稜上でビバーク。雪がないため水が作れず、またテントを張れるだけのスペースもなく、初日から苦しいビバーク。

2日目は同時登攀600mを含む8ピッチの登攀(5.11c、A2)で前回の2ビバーク目のテラスまで。夜10時過ぎまで頑張った。ラインは非常に複雑で、何度も行ったり来たりを強いられた。また、風化した岩の人工登攀や重荷を背負っての同時登攀など、体力も技術も高いものを要求され、ルート全体を通しての核心となった。

3日目は前回と同じラインをたどるので気が楽。A1クラックを含む4ピッチの岩登りも首尾よく越え、冰雪壁へ。ここから先は、すべて横山がリードとなる。4回の懸垂下降、ならびに5ピッチの冰雪壁の同時登攀でバダルピーク山頂へ。雪を削ってテントを張りビバーク。

4日目はいよいよ前回敗退したポイントを越え、新しい領域に入る。2回の懸垂下降を交え、複雑なリッジをひたすら同時登攀で進む。前半は主に稜線の右側、後半は大きく左に巻いて、巨大なセラックの下をトラバース。最後はセラックの間を縫って頂上プラトーに立つ。午後4時、テント設営。まだ時間があったので、山頂を目指すつもりで出発したが、雪が柔らかく、腰までのラッセルを



Sun Patch Spur下部岩壁上部のクラック(5.10b)

バダルピークからK7 Westまでのリッジは複雑

